

T P P問題で調整本格化へ

11日に閣僚会合・政府・民主党内の議論開始

政府は7日、参加期限が迫る環太平洋連携協定（T P P）の交渉参加問題を含めた、経済連携協定（E P A）への対処方針などを討議する閣僚会合を11日に開くと発表した。野田政権として初の閣僚会合で、T P P問題で重要な節目となる11月のアジア太平洋経済協力会議（A P E C）首脳会議に向けて、国内での調整を本格化させることとなる。T P Pは「例外なき関税撤廃」を掲げているものの、9月中旬にシカゴで開催されたT P P交渉では、関税撤廃の除外品目で参加者間の主張が対立し、合意に至らなかったのが現実。またシンガポールのゴー・チョクトン前首相が「参加して交渉する中で、譲れない部分があれば抜ければいい」と発言したとされており、交渉参加に関しても異なる見解が報道で示されている。閣内では交渉参加は早計だという意見、或いは参加後は抜けられないのではという警戒感も根強くあり慎重論も多い。

会合には、藤村修官房長官、古川元久国家戦略担当相、玄葉光一郎外相、枝野幸男経済産業相、鹿野道彦農林水産相ら関係閣僚に加え、民主党の経済連携プロジェクトチームの鉢呂吉雄座長と吉良州司事務局長が参加。政府は民主党と連携してT P P問題での議論を深め、意見集約を目指す。

開かれた国へ、国民が判断する為の情報公開が必要

3連休の最終日に、伊勢崎市の農事組合法人を訪れ、農業の大規模化の視察を行うなど、群馬県内の農業施設を視察した野田総理。自ら稲刈りも体験し、農産物も含めた貿易自由化などが焦点で、交渉に参加するかどうか結論が求められているT P P協定について聞かれると、野田首相は、農林漁業再生の具体化に取り組む姿勢を強調した。一方でT P Pをめぐるのは、今回の視察で、農家から群馬県特産のこんにゃくが、「参加すると、壊滅状態になる」との懸念が示されたが、野田首相は、T P P交渉に参加するかどうか、意見集約を急ぐ考えを強調した。先ず交渉に参加して判断するのか、TPP交渉参加の結論について、A P E C（アジア太平洋経済協力会議）を1つのめどと考えているか問われ、野田首相は「いつまでとはいう形ではありませんが、だんだんとはできないことは間違いありません」と述べた。野田首相は、11月に開かれるA P E Cまでに一定の結論を出したい考えだが、農業への影響の懸念などから、民主党内や政府内に慎重論や反対論も強く、意見集約は難航するとみられる。農業だけでなく国民生活全般に影響するT P P参加は、規制緩和・関税撤廃等の深い議論と、開かれた国へ国民が判断出来る情報公開と説明が必要だろう。



民主党広報委員会提供写真

MAC掲示板～休業案内～

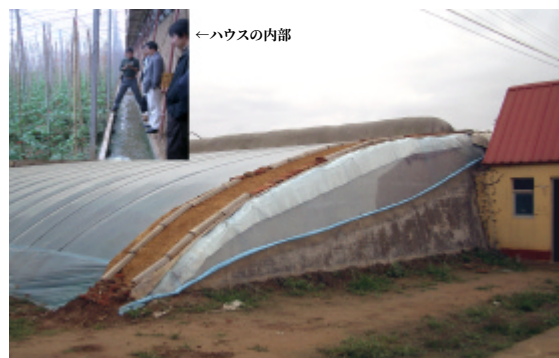
来る **10月14（金）** は
 当社創立記念日の為、休業とさせていただきます。

西部菱肥会中国農業視察

9月16日～19日の4日間の日程で、西部菱肥会運営委員会にて中国視察を実施しました。本年度当初から新メンバーにて運営委員会（情報交換会）を実施し、日本の肥料業界／食品業界に大きな影響を及ぼしている中国の農業視察を計画しました。

参加メンバーは、山本コーポレーション山本社長／小浦産業小浦社長／立石商事立石専務／岡本商事岡本社長／清和肥料和歌山井窪支店長の5名と、賛助会員・事務局を合わせ計9名にて訪中しました。維坊（イボウ）市＝有機肥料工場、落城鎮（ラクジョウチン）＝蔬菜市場、寿光（ジュコウ）市＝冬季無加温ハウス、青島（チンタオ）市＝食品店舗などを視察し、とにかくデカイ中国に接してきました。

特に興味を引いたのは、寿光のハウス団地でした。冬季外気温マイナス15度の地で、無加温の果菜類（トマト・ピーマン・パプリカなど）の栽培でした。北側に巨大な人工の土手（幅約120メートル・奥行き最下部5メートル）を作り、南側の半かまぼこ状のハウスにて栽培。昼間の日光で気温を上げ、夜間は覆いをかけて保温します。また、豚糞・鶏糞堆肥を多投し、肥料成分と共に醗酵熱も利用？した独特の栽培方法でした。農地の広い中国で、厳しい自然環境の中での工夫です。



肥料工場は小規模ではありますが（日本ではそこそこ大きい）、豊富な有機原料を元に付加価値の高い有機粒状化成を日本向けや他国向けに製造する工場を視察しました。同社社長との懇親も含め有意義な経験をする事ができました。落城鎮蔬菜市場は、日本の築地市場の蔬菜扱い量50倍という規模で、到底半日では全てを見てまわる事の出来ない大きさです。中国一、否世界の規模に圧倒されました。今回の視察では、中国の大きさもさることながら、緻密さや合理性も合わせて感じられた視察でした。これからも目が離せない中国農業・中国肥料です。（大阪支店 奥野）

《県民性ランキングパート2》

前号に引き続き県民性ランキングパート2、食品部門を掲載しました。食品部門は、更にそれぞれのお国柄が表れて面白いです。意外でしたが、おコメの消費量1位は静岡県でパンの消費量1位は京都府でした。

ランキングで見る県民性		食品部門 第一位	
バター消費量	[2009 年北海道]	うどん・そば消費量	[2008 年香川県]
チーズ消費量	[2009 年埼玉県]	パスタ・スパゲッティ消費量	[2008 年埼玉県]
牛乳消費量	[2009 年埼玉県]	インスタントラーメン消費量	[2008 年青森県]
乳酸菌飲料消費量	[2009 年群馬県]	パン消費量	[2008 年京都府]
ミネラルウォーター消費量	[2009 年沖縄県]	米消費量	[2008 年静岡県]
炭酸飲料消費量	[2009 年青森県]	アイスクリーム・シャーベット消費量	[2008 年石川県]
コーヒー消費量	[2009 年奈良県]	チョコレート消費量	[2008 年石川県]
紅茶消費量	[2009 年栃木県]	食用油消費量	[2008 年福島県]
緑茶消費量	[2009 年静岡県]	カレー消費量	[2008 年佐賀県]
豚肉消費量	[2008 年秋田県]	ジャム消費量	[2008 年神奈川県]
牛肉消費量	[2008 年和歌山県]	マヨネーズ・ドレッシング消費量	[2008 年島根県]
鶏肉消費量	[2008 年大分県]	ケチャップ消費量	[2008 年熊本県]

※統計八百屋[とどらん] ver 1.5

新米の季節がやってきました。いつも購入している明田商事さんの会津産コシヒカリが届き、今年も美味しく頂くことができました。福島は原発事故の影響で、色々と心配されている方もいらっしゃると思いますが、安全が確認されて出荷されたおコメは、例年通りとても美味しかったですよ！

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5275-5511/E-mail: macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>